

うめぼしのうた

作詞：作者不明（補作詞：翔裕園）
作曲：宮川 博之

うめぼしのうた うめぼしのうた

2月 3月 花ざかり うぐいす鳴いた春の日に
楽しいときも夢のうち 5月 6月 実が成れば
枝からふるい落とされて 近所の街へ持ち出され
何升何合 はかり売り
もとよりすっぱいこのからだ 塩につかってからくなり
しそにつかって赤くなる うめぼしのうた

7月 8月 暑い頃 3日3晩の土用干し
思えばつらいことばかり これも世のため人のため
しわが寄っても若い気で 小さい君らの仲間入り
海や山にもついで行く
運動会にもついで行く まして戦のその時は
なくてはならないこのわたし うめぼしのうた



※間奏

枝からふるい落とされて 近所の街へ持ち出され
何升何合 はかり売り
もとよりすっぱいこのからだ 塩につかってからくなり
しそにつかって赤くなる うめぼしのうた
うめぼしのうた うめぼしのうた

- 「うめぼしのうた」は、作者もわからないほど遠い昔、唱歌として歌い親しまれてきたそうです。
- 特別養護老人ホーム翔裕園の壁に貼られていた「おばあさんの語り書き・うめぼしのうた」の詩をもとに、新たなメロディーとリズムによって「うめぼしのうた」は生まれ変わりました。
- そして、施設のスタッフが創作した元気体操も出来上がり、関係者や利用者の皆様にも大変喜ばれています。
- この「うめぼしのうた」は高齢者介護施設の他、幼児教育や各種イベント等、様々な場面で演奏され、たくさんの反響をいただいています。
- この歌を通して子供からお年寄りまで、楽しみながらできる健康促進のお手伝いとなれば幸いです。

株式会社 フラワーコミュニティ放送
(フラワーラジオ)

うめプロジェクト
©UME PROJECT